

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営亀井野ハイツ3号棟	階数	地上7F
建設地	神奈川県藤沢市亀井野3215外	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	172人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2017年2月10日
敷地面積	5,001㎡	作成者	㈱タック都市開発研究所
建築面積	790㎡	確認日	2017年2月13日
延床面積	4,272㎡	確認者	㈱タック都市開発研究所



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 2.0** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)

②建築物の取組み: 62% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)

③上記+②以外の: 62%

④上記+: 62%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境 (スコア=3.4)

音環境	3.0
温熱環境	3.0
光・視環境	3.4
空気質環境	4.2

#### Q2 サービス性能 (スコア=2.8)

機能性	2.5
耐用性・信頼性	3.1
対応性・更新性	2.8

#### Q3 室外環境 (敷地内) (スコア=3.2)

生物環境	2.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	3.5

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー (スコア=4.2)

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.6
効率的運用	3.0

#### LR2 資源・マテリアル (スコア=3.8)

水資源	3.4
非再生材の使用削減	3.7
汚染物質回避	4.7

#### LR3 敷地外環境 (スコア=3.6)

地球温暖化への配慮	4.5
地域環境への配慮	3.5
周辺環境への配慮	3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	団地内の移動を円滑に行うため、歩道の充実及び段差の解消を行う。周辺に大きくブレイロットを取り、住民交流の場とする。緑地を住棟の周辺に配置し、また遊歩道を設け、緑地と住民との共生を図る。住棟については、7階建てに集積。駐車場を住棟周辺に整備。住棟同士の南北の距離を広く配置し、日影に配慮するとともに、住民同士のプライバシーに配慮した計画とした。	<b>その他</b> 土工や土砂運搬により発生する粉塵については、飛散を防止するため、散水などの対策を講じる。また低騒音工法の採用や、低騒音型建設機械の使用を考慮し、周辺の生活環境に対する影響を最小限に止める。
<b>Q1 室内環境</b>	界壁のコンセントボックスの位置など遮音性能に影響するような欠点に配慮する。また居室の開口を大きくし、光、風を積極的に取り入れるように配慮する。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 周辺に大きくブレイロットを取り、住民交流の場とする。緑地を住棟の周辺に配置し、また遊歩道を設け、近隣公園、緑地、住民との共生を図る。
<b>LR1 エネルギー</b>	潜熱回収型給湯器を採用しCO <sub>2</sub> の排出削減、省エネルギー化を図る。	<b>LR3 敷地外環境</b> 近隣や住棟と敷地境界よりの離隔距離を大きく取り、日照に配慮すると共に風向きの変化に対する影響などが無い様配慮する。
<b>Q2 サービス性能</b>	内装計画の段階でスイッチの細い位置から引戸等のスペースの有効利用に配慮する。また、設備配管等はコストと更新性、機能性のバランスに配慮した。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	コストと更新性バランスに配慮しながら積極的に再生材などを使用しCO <sub>2</sub> 排出削減を図る。また内装建材については有害物質を含まない材料を最大限採用した。内装パネルの木材には県産材を採用し、積極的に木材を使用した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される